

グローバル人材育成プログラム を終えて

幡野 瑞穂
Mizuho HATANO
物質化学科 3年

2017年8月17日から9月4日、私はグローバル人材育成プログラムに参加し、アメリカカリフォルニア州サンフランシスコに滞在した。このプログラムに参加した目的は2つある。1つ目は異国の文化に触れ、日本との違いを感じることに、2つ目は今までの自分を見つめなおすことである。プログラム参加が決定してから出国までの時間はおよそ2か月。出国までに私は英語の勉強を毎日行った。元々英語が苦手な私にとって英語の勉強をすることは苦痛であったが、学校から与えられた英語学習システムを使い勉強し、日に日に聞き取りやすくなっていることを実感した。出国までの2か月間はとても早く、充実したものであった。そして8月17日他の理工学部参加者と共にアメリカへ向かった。

初日は参加者全員で観光、2日目はAUTODESK、googleなどの企業の見学をした。企業見学では普段入ることの出来ないオフィスに行き、海外でのワークスタイルや新たな技術、技術の歴史を学んだ。

3日目はシリコンバレーで勤めている日本人の方3名の講演会、意見交換会に参加した。アメリカと日本の学生の思考の違いや意見を言うことの大切さ、これからの学生のあり方など非常に貴重な話を聞くことができた。講演会の後私たちはそれぞれのホームステイ先へと移動した。アメリカについてからこの日までは日本語の通じる世界の中にいたため苦労はなかったのだが、ホームステイ先につき一人になった時、自分の英語力の乏しさを痛感した。出国までの間に準備はしていたのだが、いざネイティブの人を前にすると何を言っているのか理解ができずにホームステイ1日目にして心が折れそうになった。ホームステイ先は私の他に世界各国から5人の

留学生がいた。その人たちの支えもあり、徐々に英語に耳が慣れ聞き取りやすくなった。私たちはキッチンに集まり、お互いの国の文化や観光地について話したり、ゲームをして遊んだり、ホストファミリーにその日あった出来事を話したりして過していた。わからないことは教えあいながら楽しい毎日であった。また別々の国の同年代の人と接し、お互いの考えを交換することでそれぞれが刺激を受け、新たな考えを身につけることができた。

そして今回の研修のメインであるインターンシップが始まった。私は化粧品に興味があったため、実習先の希望を化粧品関係と事前に伝えた。私の職場はサンフランシスコのジャパントウンと呼ばれる日本食のレストランや日本の製品を販売する店が多く並ぶストリート内にある資生堂であった。主な研修内容はお客様への商品の説明、肌のカウンセリング、レジ打ち、イベント告知、商品の在庫確認であった。

研修前に資生堂から私に出された課題は資生堂の全商品名と値段を覚えること。約200種類の英語名の製品を覚えることは想像以上に大変であった。お客様の中には現地に住む日本人はいるがごくわずかである。そのため、英語での接客が求められた。もちろん英会話が苦手な私には難しく、1日目は何もすることができなかった。2日目、このままではサンフランシスコに来た意味がないと前日の行動を反省し、従業員の人に必ず使う言葉を聞き、随時ノートに書き、そのフレーズを丸暗記してお客様とのファーストコンタクトをとった。専門用語も多く分からない言葉がたくさん出てきたが、その日に聞いたわからない言葉はその時に必ずメモを取り、その日のうちに記憶して次の日に会話の中で使うことで専門用語を覚えるように心掛けた。3日目には初めて私の接客で製品を買ってもらうことができた。この時コミュニケーションをとることの楽しさを感じることができた。

仕事暇な時間帯は専用のタブレットを用いて肌のメカニズムの勉強や資生堂の製品研究をしていた。他の従業員と比べると私は英語力や製品についての知識は少ない。しかし、化学を学ぶ点では勝っていると思いタブレットで成分を見て何が違うのか、なぜ効果があるのかを必死に勉強した。その勉強結果が生かされたのは2週間のうちたった2度だけであったが、納得して製品を買ってくれた方を見て嬉しかった。仕事終了後は同僚の方が買い物に連れて行ってくれた。買い物をしながらアメリカの文化や食生活、観光地など様々なことを教えて下さった。

研修の中で驚いたことは店員とお客様との距離感である。私が店員側であるとき、反対にお客として買い物をしていた時、みんなフレンドリーで初めて会ったはずなのに昔から知っているかのように接している。そのため、楽しく買い物をすることができ、また来たいと感じた。働いているときはもっと働いてお客様と楽しい話をたくさんしたいと思った。

このワークスタイルがアメリカのいいところであると思う。アメリカの人はストレスを感じることなく楽しそうに仕事をしている。自由であるがメリハリがあり、仕事をしていないわけではない。逆に自分から仕事を取りにいかないとその人はいないものとされる。

また現地の人と話していると「今何を勉強しているの？将来はどうするの？」という質問をよく

される。つまりアメリカの人は常に何のために今を生きているのかを考え、将来に指標を置いている。そのような環境で2週間働くことで今まで何も考えずに甘い環境で適当に過ごしていた自分が恥づかしくなった。

私はこのプログラムを通して自分の意見を持ち、目標を持つことの大切さを学ぶことができた。また英語でうまく説明できないことの歯がゆさや、私の意見をはっきりと否定されることのくやしきなど日本では味わうことの出来ない様々な経験をすることができた。この経験から私は日本人の良さである礼儀を保ちつつ過剰に謙虚になることなく自分の意見をはっきりと言える社会人へと成長できるよう残りの大学生活を過ごそうと思う。

2週間という短期間ではあったが私の人生の中で非常に貴重な2週間を過ごした。

最後に、このプログラム名でもあるグローバル人材について私は次のように考えた。グローバル人材とは母国の文化について詳しく知り、異国の地の人に詳しく伝えることの出来る人のことである。アメリカ滞在中に日本人のことが好きなアメリカ人と出会う機会が多くあった。しかし日本についての情報量の少なさと英語力の乏しさから、相手に詳しく説明することができなかった。これからは、英語だけではなく日本についても学び、それらを私にしかできない「強み」にしていきたい。